

式 辞

新型コロナウイルスの感染拡大の観点から本式典の開催が危ぶまれておりましたが、

本日ここに 北海道教育委員会委員 山本伸弘様、長万部町長 木幡正志様、黒松内町長 鎌田満様をはじめ、多くのご来賓の方々並びに 関係各位の御臨席のもと 創立七〇周年 記念式典を挙行できますことを 生徒ならびに教職員一同 とともに大きな喜びと感じ 心より深く感謝申し上げます。

さて、本校の歴史は昭和二十五年北海道八雲高校の分校として定時制の設置が認可され、歴史を刻み始めます。当時は長万部小学校の校舎の教室を間借りして開校し、昭和二九年に道立に移管され、現在の北海道長万部高等学校となります。長万部町が、交通の要衝（ようしょう）として人口のピークを迎える昭和四〇年代、具体的には昭和四二年、普通科二クラス、商業科二クラス、定時制、合わせて二四八名の最も多い在籍者数となりました。しかし、本校が七〇歳を迎えた現在の学校を取り巻く環境は、ご存じのとおり、少子化傾向の一途をたどっています。特にこの十年間に焦点をあてますと、平成二四年度には商業科が閉科になり、長万部中学校との連携型中高一貫教育が終了となりました。そして現在、本校の全校生徒は六八名、教職員一五名という小さな学校ではありますが、長万部町より通学費や制服費用、卒業後の奨学金制度、給食の提供、スクールバスの利用など挙げれば切りがないほどの手厚いご支援をいただき、とても充実した学校生活を送ることができています。東京理科大学や地元小中学校との連携も盛んで、国公立大学への進学をはじめ、全道全国大会に出場した生徒たちも数多く育成するなど大きな成果を上げ、これまで八一五名の人材を世に輩出され、活躍されていることは本校にとって大きな誇りであります。私も地域の方々だけでなく、意外な場所で意外な人から「私も長万部高校出身です」と言っていたく度になぜかうれしい気持ちになります。これもひとえに、創造力を駆使して学校経営をされてこられた歴代の校長先生をはじめとする教職員の皆様、PTA、同窓会の皆様、地域の皆様のご労苦とご尽力の賜物であると敬意を表するとともに深く感謝申し上げます。

私が生まれた昭和四〇年代、オリンピック景気に沸く高度経済成長のピークとオイルショックなどの経済的に大きな変化があった時代であり、天然色のカラーテレビは贅沢品でした。当時のSF大図鑑には、二一世紀には車は透明の筒の中を飛び、不思議な形の建物が建ち、ロボットが家事を行い、学校はコンピュータを駆使して授業をしている様子が描かれており、二〇〇〇年になるのが楽しみでした。これから時代はサイバー空間と現実空間を融合したソサイアティ 5.0 の時代に突入します。自動運転や農作業の自動化、ロボット技術の向上、ドローンによる物資輸送、学校では端末機器を使ったICT教育の実践と、小さかった頃、憧れた未来が既に現実のものになりつつあり、社会的な課題を解決しながら経済発展する時代がやってきます。この時代に昭和、平成、令和と脈々と受け継がれ、諸先輩たちが作られた伝統と歴史を重んじ、「和而不同（わじふどう）」の校訓を胸に、個性豊かで創造性に富む、心豊かでこの社会を生き抜く逞しい人材の育成を少人数だからできる寄り添った指導に努めること、地域社会の発展に貢献する学校づくりに邁進することをお誓いし、これからも皆様方に深いご理解とご支援を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

令和三年 十月一七日

北海道長万部高等学校長

山 田 仁 樹